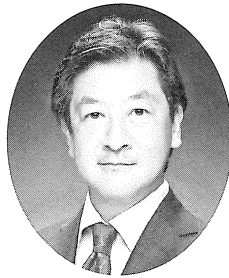




出版クラブ会報 No.627



先人のスピリットを見習い 私たちが常にチャレンジを

日本出版クラブ会長

野間 省伸

(のま・よしのぶ)

あけましておめでとうござ
います。
今年は戦後80年に当たりま

す。先人たちは焼け野原の中
から、出版界を再興しました。
物資困窮、とりわけ紙不足の
なか、出版事業を継続するこ
とがどれだけ困難だったこと
でしょう。節目の年に業界の
歴史に思いをはせることが重
要だと考えています。苦難を
乗り越えた先人たちのスピリ
ットのなかに、いまの時代を
乗り越えるヒントがあると思
うからです。

さて、昨年は1月1日の能
登半島地震に始まり、各地の
大雨や台風など災害の多い1
年でした。亡くなられた方々
に哀悼の意を表しますととも
に、御遺族と被災された方々
にお見舞いを申し上げます。
日本は地震をはじめ災害の
多い国です。日本出版クラブ
では昨年「震災対策室」を設
置しました。被災地の「読書
環境整備」と「子どもたちの
夢の実現」のための読書支援
事業を行っております。

能登地方の現地書店とも協
力し、珠洲市、七尾市、能登
町、穴水町へ本をお届けしま
した。豪雨による二次災害で
大きな被害を受けた輪島市へ
の寄贈も、今年の早い時期に
実施する予定です。末長い取
り組みにしたいと思えますの
で、今後ともご協力のほどよ

ろしくお願いいたします。
昨年の第63回全出版人大会
には、約400人の方々にお
集まりいただきました。筑摩
書房社長(当時)の喜入冬子
様に大会委員長を引き受け
いただき、大会声明で素晴ら
しいメッセージをいただきました。
「出版とは、誰かが書
いたものをお披露目する、公
にする仕事なのです」という
言葉がいまも心に残っていま
す。

記念講演は社会学者であ
り、京都大学大学院教授の岸
政彦様に「息を止めて海に潜
る」と題してお話しいただき
ました。その中で「紙の上に
記された文字」すなわち「本」
にはできることがたくさんあ
るはずだ、という出版界への
激励とも思える言葉をいただ
きました。このメッセージも
深く心に刻まれています。
本年、出版クラブビルは開
館7年目を迎えます。当初よ
り取り組んできました3階の
クラブライブラリーでの「小
さな本の展覧会」は少しずつ
知名度が上がリ、一般のお客
様のご来場が増えています。
秋には日本書籍出版協会との
共催で、「私たちの『思い込
み』に気づく本棚」と題した
展示を行いました。ジェンダ
ーをテーマとした展示は一昨
年に続き2度目です。ジェン
ダー・ダイバーシティの推進
は出版界の発展にとってきわ
めて重要なことと考えていま
す。今後とも、積極的にこの
問題に取り組んで参りたいと
思っています。

経産省がいま書店振興プロ
ジェクトを推進しています
が、私は同省から委託された
調査事業の委員を務めていま
す。書店はただの販売拠点で
はなく、読者が未知の情報や
新しい価値観に出会う場であ
り、文化創造の基盤でもあり
ます。そして読書すること
によって、読解力、想像力、共
感力、表現力など、さまざま
な能力を向上させることがで
きます。書店が元気になれば、
出版界もより豊かになりま
す。書店振興のため、具体的
な行動を起こしていくつもり
なので、ご理解、ご協力のほ
ど、何卒よろしくお願いい
たします。

私も参加しましたが、昨年
秋のドイツ・フランクフルト
ブックフェアには日本から31
社が出展しました。令和の時
代には、人口減少が続く国内
にとどまらず、海外へ打って
出ることも必要でしょう。
21世紀に入り、早くも四半
世紀が経とうとしています。
これまでのやり方、ルールが
時代に合わなくなっているこ
とも多々あります。その中で、
さまざまな会社や個人、団体
がこれまでとは違うチャレン
ジを試みています。何が正解
か、誰にもわかりませんが、
苦難の時代を乗り越えた先人
たちを見習って、私たちが常
にチャレンジを続けていくべ
きだと思っています。
本年も何卒よろしくお願
いいたします。(講談社社長)

主な記事

- ▽2025年 新年名刺交換会団体代表挨拶……………一〇五
- 野間 省伸・小野寺 優・宮原 博昭・近藤 敏貴・矢幡 秀治
- ▽新春紙上名刺交換……………六十九
- ▽(出版歳時記)乙巳の歳に思う……………二十

新春紙上名刺交換

= 2025年 年頭所感 — 出版人の声 =

年頭所感

本田 正明

明けましてお目出度うございませう。明治二十四年創業の芸艸堂は唯一の木版本出版社として十萬点以上の版木を版木蔵に所蔵しています。又明治期以降の数々の出版本も見直されて多くの愛書家に所蔵されています。現在岩波書店の編集長布川角左衛門と寿岳文章の対談集「本の正座」が布川文庫日記刊行会の出版人の肖像布川文庫日記物語（二月十日発行予定）に掲載されることになりました。初頭に当り皆様にご案内させて頂きました。

(芸艸堂顧問)

三足のわらじと友だち募集

青木 康晋

2024年も生活に変化がありました。Gakken顧問に加え、春から日大で「林真理子理事長サポートスタッフ」をしています。福島県いわき市の東日本国際大では、秋に非常勤の特任教授ながら危機管理・広報担当の副学長になりました。「三足のわらじ」です。本もメールも読まない学生たちとのやり取りに、遅まきながらLINEを始めました。友だち募集中。

(Gakken顧問、元朝日新聞出版社長)

SDGs

工藤 裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います。本年もよろしく、御願い申し上げます。タイトルにありますSDGsは、資格のような検査機関は無く、曖昧な考えがでてしまう、例えば本が紙でできているので環境に悪い、だからタブレットを使う等誤解を招いている、タブレットは殆どが石油素材、紙は原料となる樹木が二酸化炭素を吸収し、紙はリサイクルが出来て環境にやさしいのにペーパーレス化と勘違いしているのでは。

(工藤出版サービス代表取締役会長)

科学技術の未来は大丈夫か

志村 孚城

昨年、国際学会に招待され認知症の予防に関する講演のためタイとイギリスを訪問しました。学会の懇親会の席や街中で、日本人に対する対応が一昔前と大きく違って来たのをしみじみ感じました。まず、チャイニーズと聞かれ、次はコアリアかです。産業や科学技術のあらゆる分野でインドは完全日本を抜き去り、タイもインドネシアもこれに続いているのに、日本はマネーゲーム立国を目指していいのですか。

(創生生体医学工学研究所代表取締役)

毎日が日曜日の今

岡崎 満義

毎日が日曜日になってから久しくなる。今、生活のけじめは週2日の体操教室、月2日の歌教室である。生徒はそれぞれ6、7人で和気藹藹とやっている。昭和10年代以降に生まれた男は兵隊にとられることもなく、高齢者になれば体操教室など作ってもらえて、本当に幸運な世代だと思ふ。日本の大問題は少子高齢化だが、そのまっ只中にいて、何か社会にお返しをしなくてはと思うのだが、それが中々思いつかなくて弱っている。

(元文藝春秋編集長)

創造的で楽しい学びの実現へ

南條 達也

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。昨年は、教育の多様化とデジタル化が進む中で、現場の声に耳を傾けながら、教材・サービスの改善に努めてまいりました。本年は「学び」に強い総合出版社として、より創造的で楽しいコンテンツ・IP創出や、国内のみならず世界中の教育課題に応えるための事業改革に注力いたします。子どもたちの未来への力を育み、社会の持続的な成長の一助となるよう、心を新たにに取り組んでまいります。

(Gakken代表取締役社長)

変化に挑戦

伊東 孝

出版業界は全国的にも苦戦が続く書店を余儀なくされる書店や図書館のない市町村が増加傾向です。地域の文化、情報発信の場を守ろうと国を挙げて動き出している厳しい状況の中で本年は社会情勢や世の動きを敏感にキャッチし変化に恐れず対応する勇氣、覚悟を持って挑んでいきたい。厳しさはいつの時代も同じでそれを乗り越え今があり、これからは地域に役立ちお客様に喜びを感じてもらえる一年にしていきたい。

(山十・伊東文具店代表取締役)

新年のご挨拶

日岐 浩和

新年明けましておめでとうございませう。常日頃本づくりを通じてお世話になっております印刷会社で構成される「出版メディア協議会」を代表してご挨拶申し上げます。

昔から巳年は「起点」の年と言われております。世界が不安定さを増すなか、日本、アメリカ共に本格的な新政権での船出の年となります。先が見通しにくいなかではございますが、出版社様の益々のご発展、ご隆盛を祈念いたします。

(東京都印刷工業組合・出版メディア協議会長)

伝統と文化

鳥山 公夫

新春のお慶びを申し上げます。昨年のスポーツヒーローは？OHTANI一択で過言でもないか。がNYとLAの伝統のWSリーズも野球小僧だった私にとっては77~78年を思い出させる。Mr.オクトーバー・R.ジャクソンに対しS.ガービーの強打者対決は庄巻。日本の野球と違いロゴマークも都市名を冠し、ベースボールが土地土地の文化財であることを学んだ。翻って、出版書店も永く大切な文化財。軌を一にして守っていかねばならない。

(光文社代表取締役副社長)

おかげさまで35周年

寺川 光男

新年あけましておめでとうございませう。光和コンピューターはお陰様で創業35周年を迎えることが出来ました。出版業界の皆様が育てて頂いた会社です。沢山のお教えを頂き、数えきれない経験を重ねて参りました。感謝の気持ちで一杯です。まだまだ未熟な私どもですが、業界にとってなくてはならない会社として歩みたく思います。今後とも精進を続けて参ります。一層のご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

(光和コンピューター代表取締役)

年頭所感

本田 正明

明けましてお目出度うございませう。明治二十四年創業の芸艸堂は唯一の木版本出版社として十萬点以上の版木を版木蔵に所蔵しています。又明治期以降の数々の出版本も見直されて多くの愛書家に所蔵されています。現在岩波書店の編集長布川角左衛門と寿岳文章の対談集「本の正座」が布川文庫日記刊行会の出版人の肖像布川文庫日記物語（二月十日発行予定）に掲載されることになりました。初頭に当り皆様にご案内させて頂きました。

(芸艸堂顧問)

三足のわらじと友だち募集

青木 康晋

2024年も生活に変化がありました。Gakken顧問に加え、春から日大で「林真理子理事長サポートスタッフ」をしています。福島県いわき市の東日本国際大では、秋に非常勤の特任教授ながら危機管理・広報担当の副学長になりました。「三足のわらじ」です。本もメールも読まない学生たちとのやり取りに、遅まきながらLINEを始めました。友だち募集中。

(Gakken顧問、元朝日新聞出版社長)

SDGs

工藤 裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います。本年もよろしく、御願い申し上げます。タイトルにありますSDGsは、資格のような検査機関は無く、曖昧な考えがでてしまう、例えば本が紙でできているので環境に悪い、だからタブレットを使う等誤解を招いている、タブレットは殆どが石油素材、紙は原料となる樹木が二酸化炭素を吸収し、紙はリサイクルが出来て環境にやさしいのにペーパーレス化と勘違いしているのでは。

(工藤出版サービス代表取締役会長)

科学技術の未来は大丈夫か

志村 孚城

昨年、国際学会に招待され認知症の予防に関する講演のためタイとイギリスを訪問しました。学会の懇親会の席や街中で、日本人に対する対応が一昔前と大きく違って来たのをしみじみ感じました。まず、チャイニーズと聞かれ、次はコアリアかです。産業や科学技術のあらゆる分野でインドは完全日本を抜き去り、タイもインドネシアもこれに続いているのに、日本はマネーゲーム立国を目指していいのですか。

(創生生体医学工学研究所代表取締役)

図書館に思う

児玉 幸彦

昨年、故郷の高校同期から米寿祝の誘いがあり帰省した。戦後間もない頃、市内目抜き通りに書店が6店舗ほどありバイトで働いた。午後3時、駅に貨車が着くとリヤカーを引いて集合し山積みの梱包を店別に整頓、駅員に認印を貰い店頭並べた。文春・婦人4誌等が良く売れた。今は1店も無い。駅近くの図書館は電子化し貸出・返却は画面を押すだけ、館内は手引きカート自由。せめて貸出冊数の数を印税等版元へ還元して欲しい。

(出版同代会顧問・元双葉社)

心機一転

山口 徳二

あけましておめでとうございませう。昨年9月に代表取締役社長に就任いたしました山口と申します。まだ経験も浅く未熟なところは多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願いたします。さて、弊社は本年から本社建て替えのため3年ほどですが慣れ親しんだ飯田橋から本駒込へ仮移転しました。心機一転、出版界のために少しでもお役立てできるような進めたいので今後ともよろしくお願いたします。

(秋田書店代表取締役社長)

毎日が日曜日の今

岡崎 満義

毎日が日曜日になってから久しくなる。今、生活のけじめは週2日の体操教室、月2日の歌教室である。生徒はそれぞれ6、7人で和気藹藹とやっている。昭和10年代以降に生まれた男は兵隊にとられることもなく、高齢者になれば体操教室など作ってもらえて、本当に幸運な世代だと思ふ。日本の大問題は少子高齢化だが、そのまっ只中にいて、何か社会にお返しをしなくてはと思うのだが、それが中々思いつかなくて弱っている。

(元文藝春秋編集長)

創造的で楽しい学びの実現へ

南條 達也

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。昨年は、教育の多様化とデジタル化が進む中で、現場の声に耳を傾けながら、教材・サービスの改善に努めてまいりました。本年は「学び」に強い総合出版社として、より創造的で楽しいコンテンツ・IP創出や、国内のみならず世界中の教育課題に応えるための事業改革に注力いたします。子どもたちの未来への力を育み、社会の持続的な成長の一助となるよう、心を新たにに取り組んでまいります。

(Gakken代表取締役社長)

変化に挑戦

伊東 孝

出版業界は全国的にも苦戦が続く書店を余儀なくされる書店や図書館のない市町村が増加傾向です。地域の文化、情報発信の場を守ろうと国を挙げて動き出している厳しい状況の中で本年は社会情勢や世の動きを敏感にキャッチし変化に恐れず対応する勇氣、覚悟を持って挑んでいきたい。厳しさはいつの時代も同じでそれを乗り越え今があり、これからは地域に役立ちお客様に喜びを感じてもらえる一年にしていきたい。

(山十・伊東文具店代表取締役)

新年のご挨拶

日岐 浩和

新年明けましておめでとうございませう。常日頃本づくりを通じてお世話になっております印刷会社で構成される「出版メディア協議会」を代表してご挨拶申し上げます。

昔から巳年は「起点」の年と言われております。世界が不安定さを増すなか、日本、アメリカ共に本格的な新政権での船出の年となります。先が見通しにくいなかではございますが、出版社様の益々のご発展、ご隆盛を祈念いたします。

(東京都印刷工業組合・出版メディア協議会長)

唯一無二の「図鑑づくり」を

福田 ゆめ子

明けましておめでとうございませう。昨今、季節の到来や終結を昔より慌ただしく感じるのは、四季の境が崩れ「夏」と「冬」の二季になって来ているからでしょうか。その様な中、今年弊社は創立135年を迎えます。また、北隆館が「牧野植物図鑑」を刊行して100周年という節目の年でもあります。このDX化時代に合わせ、私共も変化し続けていく覚悟ですが、同時に明治創業からの唯一無二の「図鑑づくり」を、これからも誠心誠意努めていく所存です。

(北隆館編集部)

感謝

井之上 賢一

新年明けましておめでとうございませう！皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。昨年、長年にわたる教科書業務に携わってきた功績に対して春の黄綬褒章の栄に浴したことは身に余る光栄でした。平成三十年に脳梗塞に罹患し、それから終わりのないリハビリが続いていますが、今年も体力の続く限り努力してまいります。本年も宜しくお願い申し上げます。良い年になります様に！

(久美堂代表取締役会長)